



ル
3326

國號考

大八嶋國

皇大御國の號神代不二教あり。一、^{アシハラノカツクニ}大八嶋國。二、^{アシハラノカツクニ}葦原中國なり。三、^{アシハラノカツクニ}大八嶋國也。古事記云。伊邪那岐命伊邪那美命御合生子淡道之穗之狹別嶋次生伊豫之二名嶋次生隱伎之三子嶋次生筑紫嶋次生伊伎嶋次生津嶋次生佐度嶋次生大倭豐秋津嶋故因次八嶋先生謂大八嶋國也。見てより書紀云。生坐る次第

本居宣長考

明治三十二年四月一日
森文作氏

なゆハ傳く異あれども八の教ハ曰シ由是始起大八
洲國之號焉モアリシム志麻也ノ周廻アリム界限の
所リて一區ある域トイム名ナリ然云をのきハ志麻
也トモルセテアセバノナヤフ言也同ドモナシテシ
コナリモ取はナリ曠く界限ナクハアズテ界限アリモ
テム名モハカタノ所海のみあリ國中みて山川有
れ事有リル地モイマリテ見ぬモノナヒ下條ナリ
秋津嶋のヤアシナツヲ見テアラシシ又ニ大八嶋

ナギリス名乃ナギリスナギリス大キナムモイマレバ必トモ
小キナムのみイフムモアリヌ但一ナギ小くて海の中而
あるハ殊ニ名ナリル此界限も炳焉ナリバ專ニム地乃
ミの名ナメシトモハジクアリナリヒテ嶋洲ア
ガニナシトアヘテノ書あシシニ海の周満る地トイフニシ
却テナシトアレシテナリル此字小涅ナヅミニシ必リナリ
海の中あるとのみいひ又小ニシミナリムアリヤモ
ヒアヤナリシ元ニ皇國の言ハ漢字をあてて居ハ全く
アリムもあり又かくすハ當アモカニシハアリダニ

も多かると後世尔ハアヤミかくよ小字アヤミのみするな。言のをれと誤るうやのみ多きぞしつての大八嶋乃嶋も海の周メタを隔てる一界也國をいするす。その例ハ書紀乃神代卷ヒトツボ小三韓國カラクニノレ韓鄉之嶋ヒトシ万葉集のありハ海をすゞスズムハ大和の方とコトても倭嶋ヤシトジマ也。又大八嶋を以爲ても倭嶋根ヤシトシマネによあれ。すが是なり。さて八嶋ヤシトシマも以ハ海を隔てども一連なると號。幾國イクニアキナレ一嶋ヒトシ也。その數八あれば。かくてそのハハ例の弥アヤリてりよふも。嶋の數乃多る。

この号なりきしと。や後アハ號のをひやりて。その數をみづのそつひ傳シテくるも。疑つるあれ。古事記ホカニ有アリ。傳シテくるハ哉。畿内ウチツクニナミナ七道ミナめ諸國シニベニ多備ツバ。又化の嶋ヤシトシマハ一もすアリ。而更ウタカて。餘タタカるものなく足タタカてもあれば。乍ハタハタりハ。の數ハ動ウカざアリ。書紀の傳シテくよハ。以內シナヘ不化の傳シテくよ。而ハ。ハの數動ウカざアリ。古事記の正アリ。多アリ。都アリ。そ定年シテきなり。立てけ号ナハ。外國シナニ對アリ。をアリ。かアリ。天アリ。の下アリ。と統言号アリ。ナ。八千矛ヤナホコ。神の法アリ。夜斯麻ヤシマ久爾アリ。よりみさす。ひ。倭建命ヤシトタケミコトの法言アリ。

吾者坐纏向之日代官所知大八嶋國大帶日子淤斯呂
和氣天皇之御子也。孝德天皇の詔也。現爲
明神御八嶋國天皇也。公式今死詔書式也。
朝廷の大事。用ひり。詔りハ。明神御宇大八洲天
皇詔旨。也。乃り。も。也。也。也。也。

華原中國 水穗國

興福寺独僧等の献生る長歌。日本乃野馬臺能國
遠賀美侖伎能宿那毘古那加葦菅遠殖生志川。國固
未造今年與理云。やまとあれ。ばる。今傳ひる。古出ざる
アハ見てざれども。かくよかく。必多のうみ捷。アリケ年。
さればも。大穴年遲少名毘古那二柱御神の國造堅
多ひも。植生一廻り。あまするなりけつ。かくて
中皆の丁度。さとも。海乃渚。アハ。いがく。ある葦代多かり
一往也。せられ。す。や。の。な。や。を。見。ても。ち。彦。し。さく
此葦原。カ。ふ。て。の。号。アハ。シ。き。く。説。阿。モ。も。咲。方。アキ

アラアリ。アの。ヨウ。キ。由。ハ。仰。セ。ぐ。ふ。論。ア。ム。ヒ。ミ。カ。ジ。

アハ。アレ。ト。豊。葦。原。之。水。穂。國。ヤ。シ。イ。ス。リ。豊。ハ。美。称。ア。テ。大
八。嶋。ア。大。の。ア。ギ。ヒ。ナ。リ。ア。ハ。此。國。號。ア。シ。居。ア。係。ア。リ。
葦。の。ア。リ。ア。ケ。テ。云。ア。ハ。ア。ヒ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。
水。ハ。字。ハ。借。字。ア。テ。ア。の。ア。リ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。
ア。ヒ。名。ア。テ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。
字。ア。ヒ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。
穂。ア。ヒ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。ア。ヌ。

のみいするハ万葉あり秋穂ナギシヒ書紀ト天照大神
ニタリタラアガタカノハラニキコレメスユニハノホモアガミヲミコトニキコレメスヨンレ
又勅曰以吾高天原所御齋庭之穗亦當御於吾兒也有
ゲゴヤヘテ皇國ハ莫のアモもと異國アリヘキモアレ
ム中モシ稻ハ殊ヨ万國ト比ヒアベバクシニ次シテ
ツビ美好ミコヤ神代よりかくの御やく御由緒の
所リテ今ト至るまでモニヤリ水穂國の名アリ貢貢
ムシテヤシヅシモテナシト天ノ下ル傍人カレ事で
ムシ稻アカモ稻タニ給ハアグミ。皇神の御惠をあ
アロウリタヒタヒトモトドクは、そもく人ハ命バリ

重キぬハナミミト。それ續てルアムシヤハリム稻
孔功ムアレバセアリ。御巴ナリ重くもミ寶ハ何物う
何シムシ稻アカモ稻タニ給ハアグミ。皇神の御惠をあ
アロウリタヒタヒトモトドクは、そもく人ハ命バリ

夜麻登

秋津鳴師木嶋キレニ

夜麻登ヤツハリ也畿内ある大和一邑の名あると。神武
天皇がヨリ大官もあませり。ナリして後の代く
のあしみふじ風向ナリケリ。左アマガクシ天ノ下
ク大名トもうちゆるなり。さて此風ハ迹藝速日命のあま

虚空見倭國ミツヤトノクニ、曰く、虛空見倭國ミツヤトノクニ也。すら古代ありて神代
よりれ名なり。又それよりよけり。八千矛神の漢ヤチホコ也。
やまゆう一車イチカマ、きやあれぞも。そハはふア名とよみ
あきすらトハ阿アト、ヤモキモキ。又書紀の神武御事の
まよ。昔伊弉諾尊ミタマシマトホメテ目此國ミタマラヤヒトハ。日本者浦安國ハシモリガシ・細戈千足國スジゴチツヅクニ・
磯輪上秀真國シマツボルホツニクニ也。もし召マサニ。かくて神武天皇ハ此國ミタマラヤヒトハ
を称タマハラ。御事モシハシマ。起アツム。國カミの名
やもなれり。いふ。いふ。もくろやなり。又或況オコ。

夜麻登ヤマト也。神代より天アマの下シタ大タカ名ナミあり。と。神武
天皇乃御代ミタマラヤヒトハとして。よひて帝都ミヤコの一ミの名ナミもされ
ぬ。す。此天皇御事ミタマラヤヒトハ。皇輿巡幸因スメラミトクニ。登腹タリモルホシ。上アマ嫌
間立ミカニテ。而ミサケテ。迴望國狀クニガタラクアナニヤ曰。妍哉乎國之獲矣。雖タドモウツユ内木綿之真遠
國グニ・ゴトシ。猶如蜻蛉之醫アキツノトナミサガ。鳥由是始有秋津洲之号ハジテアキツシモトナミサガ也。昔伊弉
諾尊ミタマシマトホメテ。此國ミタマラヤヒトハ。ある秋津洲アキツシモトナミサガも浦安也。又云天
下アマミタの大名タカナミ。夜麻登と。やく。伊邪那岐命の御事
より大名タカナミ。又神代紀ミタマラヤヒトハ。迺生大日本豐秋津洲オホヤヒトトヨアキツシモトナミサガ
也。又狹野尊ミタマラヤヒトハ。後撫平天下ラシロシメスヤミタクニカレミタマラヤヒトハ。奄有八洲ミチタタヘテミタマラヤヒトハ。故復加号ミタマラヤヒトハ曰

神日本磐余彦尊カムヤートイハレ ピコノミコト、何るこやくみる神代より天
の下シテ大名オホナミなり。わちじき那ナカニモトコロクナトす。又誤アラシあり。
すがの秋津アキツ洲シマ也。大和ヒヨの内クスナ地名トコロクナなり。天アメの下シテ
傍ヒヨりす。あくゞアクシ。そは廻望國ミサナチクニ狀ガタ也。あるこそし知ヒヨ候ハシメし。
之ヒコロも廣ヒロき天下アメニの形狀カタナハ。喰間立クスナす。一目ヒトメアリ。ひいと
ク見ヒコロす。あまアマの廣ヒロき。又内木綿ウツユ之ヒコロ真遠國マサニギ也。のく西
すらし狭サバき。よせりす。すらばスラバか。廣ヒロき。絶ヒヨ比ヒヨ地ジの事
は。下シテ又別コト。あくゞアクシ。又浦安園クラヌギ也。つす。一風ヒコロ
こやなる。釋日本紀ナガアリ。天アメの下シテ大名オホナミ也。

之より小号をあびてして生天日本^{オホナニトヲ}もいするハ
ムクニモつよの二部の号ハ八洲と總^{スベ}する大号なるふ。
これハそのうちの七洲^{ナシ}とのぞみて一洲とすふ而あれ
號なり。かくて一洲の大号ハ別よなを成り。ちば
近く大日本^{オホヤニト}やへいすり。夜麻^{ヤマ}登ハ一洲の名からが。天の
下の大号あむなと。又一洲内^{ヒロ}して。またて奈良^{ミヤコ}を
さしてもひて。廣^{ヒロ}とも狹^{サバ}とも伊豫^{イヨ}とも号たる者
有あり。そハ氣聲^{ツクシ}をりても伊豫^{イヨ}と一洲の名を
名を。九玉四國の大号^{ナシ}もして。氣聲洲伊豫之二名洲

あやいする例^{ナシ}同ド。又狭野尊^{サヌノミコト}尙^{ミヤ}也。何^{コト}文のさぬ
ハ天下の大号と取て神日本^{カムヤニトシカク}^{ミヤ}也。其^タ名^{ミヤ}也
呼^{シカ}也。然^{シカ}リハあ^{シカ}也。されも皇京^{ミヤコ}坐^{ミサセ}ふ
國の名^{ミヤ}也。大御名^{ミヤ}也。がま^{ミヤ}也。夜麻^{ヤマ}登^{ヒロ}也。一洲の名^{ミヤ}也。然^{シカ}リ^{ウツ}
有^ヒよりの大号^{ナシ}もハ^{シカ}也。一洲の名^{ミヤ}也。然^{シカ}リ^{ウツ}
號^{ミコト}もハ^{シカ}也。後^{ヒロ}高^{ミヤ}く^{シカ}也。然^{シカ}リ^{ウツ}ハ^{シカ}也。然^{シカ}リ^{ウツ}也
る例^{ナシ}也。出^{ヒテ}相^{ハカ}貢^カ也。もと^{シカ}人^{ミコト}也。羽^{ミコト}也。然^{シカ}リ^{ウツ}也
取^ヒて。この名^{ミヤ}也。せ^{シカ}れが^{シカ}く^{シカ}也。國史^{ミコトノクニ}也。のう
後^{ヒロ}河^{ミヤ}也。河郡^{ミヤ}也。出^{ヒテ}相^{ハカ}也。未^ミお雲^{ミコト}也。出^{ヒテ}安^{ミヤ}也。國^{ミヤ}也

藝那安藝々大隅は大隅郡大隅々すゞとゆふを名な
ひが郡の名りもなり。歌の名アは名りもなれりや
ゆめりきや。書紀の家神，萬世社也小。椰磨寺那殊於朋
モヌシノトナス。望能農之能也。大物主神ハ天下と經營成ム。モヌシノトナス。ア
ヤクタ。椰磨寺ハ大号のびやくゆやゆれど。二ハ
あよすば後せめむ。日本一乃剛の者也。ニツホンイチカウモ
本ハ空回のうやすれやも。之ハやのびて天地のあひ
だり。あびすより剛の者也。ゆめりがけやくぐりて。古
大和の京乃時ハ。その一の名をつひく。たのがく天の

下の事あるまへ。それで天下といひてあるにあら。
さればあまほ。とハモトといつま。あれどもえハちよふ一風
れ夜麻登めり。かくしてやうやくうらゆをさる大号弓
をかすめり。見ゆて古事記。仁徳天皇日女鷦よ幸
せる時。もはや。雁う卵。と。うなづくは。達内宿禰命。小
豆。す。そ。を。あ。す。ま。れ。大。流。す。ふ。と。ま。き。つ。る。内。の。あ。そ。波
た。ひ。学。の。長。ナ。人。そ。く。と。却。や。ま。か。み。玉。ア。る。子。鹿
や。ま。き。や。さ。れ。ア。言。ア。も。あ。れ。も。そ。く。み。ひ。倭。キ。ト
國。ア。る。子。鹿。ア。ま。き。ジ。ヤ。ジ。ル。ア。ハ。リ。日。女。嶋。ハ

津、ふより。書紀よハ二首也。下。秋は將や。も
きて。地も河内。四箇田堤。雁産也。あり。いがれよ。され
大和のふ。内。ハ。あ。之。又。ちの。を。も。う。せ。ハ。没。が。て
皇國。も。ハ。多。が。一。多。れ。ば。此。夜麻登。ハ。も。く。
天の下。代。大号。ナ。リ。モ。一。少。の。名。と。り。て。天。下。の。大名
聖。治。事。ハ。り。あ。う。一。代。も。代。の。例。す。れ。等。
夜麻登。も。く。れ。す。す。ま。う。や。影。ふ。人。あ。れ。や。も。仁
徳天皇。の。佛。多。よ。ハ。や。く。御。う。も。も。も。セ。あ。も。よ。腐。う。り
ひ。な。れ。む。事。な。れ。ば。い。き。く。施。す。ひ。そ。の。う。み。か。の

國藉ハ。既。ア。ほ。り。す。ミ。ト。ル。也。が。も。が。る。も。の。ふ。乃。事。を
捨。げ。り。な。シ。ひ。も。も。よ。こ。や。ハ。い。ま。ご。あ。く。ざ。れ。に。
並。る。ア。一。あ。の。よ。カ。の。お。ア。す。と。な。ふ。る。や。可。
な。れ。る。法。の。せ。れ。い。と。り。そ。り。く。神。代。ド。リ。キ。リ。
却。る。事。や。も。と。ゆ。く。等。う。れ。り。あ。す。む。る。や。ハ。す。く
か。あ。す。り。う。あ。ど。し。も。が。な。ぞ。れ。が。も。う。て。く。
絶。や。あ。う。が。く。ん。づ。あ。ね。通。す。く。ら。も。う。う。か。
夜。麻。登。や。つ。よ。ハ。り。や。山。道。旅。宿。ベ。ト。リ。始。ま。る。名。う。ら。や。
と。ハ。く。師。の。古。考。列。記。ア。タ。ト。ウ。う。れ。よ。あ。ま。

の備あり。其後は後々ハ和名抄トハ城下郡大和於保
夜末止也見テト。神名帳リハ山邊郡大和坐大國
魂神社也者て。那の山がすと。而ハ城下郡入もと。
後の山なり。いはせ却れども。げやく続紀の天平
寶字二年。北文リモ。城下郡大和神山也あれバ。又城
下郡あり。一後よ山邊取リハ入もとす。又御
社今も新泉村にそよ至て。山邊取たり。内之氣和名抄
ハ後アリ。多御却れども。諸國郡也乃名ハ。奈良朝の
丁跡をもせらねり。すりて。その事も舉^{アゲ}て。也

生居。すりて神名帳よりハあらまこともなし。あり。
さて又此郷と紀をめぐり。やまとやまとのみいすば。或
者よ於保夜末止也。ゆくハ。今之のまよありての唱言な
る。いはせ。し。も。無仁紀アリ。大倭直モ。也。あり。たり
続紀乃文リモ。大和モ。あくモ。也。一。互。至。大和モ。り。ある。
此の名リと同。と。大。と。よ。と。み。代。加。可。も。あり。また
夜麻登モ。シ。ハ。わ。も。み。や。も。り。始。す。り。て。ほ。よ。一。互。乃
名リ。も。な。れ。や。つ。上。よ。引。る。諸。國。の。例。や。す。れ。た。む
くれ。ば。す。れ。や。つ。海。を。き。が。ぞ。く。然。れ。ぞ。も。れ。く

考るふ此あひりし世より一昔のあがむをりの々あハ後
リ倭大國ヤマトオホクニに魂神の精彦シジリエよりて、そり分て一昔乃
多を負せきく。そのやども倭やハいふあび隊サト。今の多尔
伊勢のふ内ソヌチりと。大御神のまのびア里ミコトと。し。
瑞カトよ伊勢イセやつす也。因クニじんばすすなり。代アタシトコロ而アタシリもヒ例
倭國造クニミツコトを稱タガ。ち灰アシハナシテ比アハツビコラハ
祀カミ五ゴ六ロク九クシ十トモ。書紀神武御事ヤマトノミコトノハタシ也。以珍彦アハツビコラ為
主シテ。かく倭ヤマトの奉タマフなり。施アハツビコラ。大國魂神
ハアハツビコラ天皇の大廟の内ミコトより祭タマフ。是爲神
也。何ナシり。かく之爲此大國魂神の倭ヤマト。鎮座レジリせらは。

天皇の六年コトコロ。始タマフ也。化所アハツビコラハシ御タマフて祭タマフ。すひ。
同七年カ。市磯長尾イチシロナガラアトラ。人ヒト。神主ミタマ也。あますり。
又垂仁タマフ御タマフ卷タマフ。一ツの伊イ富トとあまアマ。いげく。是時ヒタチ倭ヤマト大神
著穗積臣遠祖カリアホグミラオヤ大水口宿オホミチスケホ称タマフ而タマフ誨タマフ之タマフ曰タマフ云タマフ。時天皇聞タマフ是
言タマフ則タマフ命タマフ中臣連祖探湯カヌシニ主ウララニトタマフ之タマフ誰人タマフ以タマフ令タマフ祭タマフ大倭ヤマト大神タマフ。
即渟名城ナキノワカヒス稚姫イシキラブコホ命タマフ食タマフト鳥カレ。因タマフ以タマフ命タマフ渟名城タマフ稚姫タマフ命タマフ定タマフ神地メカムドコロ。
於穴磯邑ナキノムラニ祠タマフ於大市長岡カスガ。然タマフ是渟名城タマフ稚姫タマフ命タマフ既タマフ身タマフ歟タマフ悉瘦弱コトクニヤカミテ。以タマフ不タマフ能タマフ祭タマフ。是以タマフ命タマフ大倭ヤマト直祖アタシ長尾市宿タカヲヤ。令タマフ祭タマフ矣。
也。何ナシり。かく之爲此大國魂神の倭ヤマト。鎮座レジリせらは。

宗神々垂仁の御事よりすれバ・神武の時代ア・傳セ云
・ハ・あ・あ・ま・く・ま・り・ ひ・空・神・の・御・代・ よ・り・前・ア・
・ほ・や・く・そ・の・名・所・第・ 祠・於・倭・邑・ や・あ・ま・く・ま・り・
・さ・は・あ・ま・定・神・地・於・穴・磯・邑・ 祠・於・大・市・長・岡・岬・ や・あ・ハ・
・い・ま・ぐ・傍・て・ふ・々・名・所・第・ が・わ・一・ な・ま・り・穴・磯・大・市・ハ・
・ゆ・く・ ほ・よ・、城・上・ 邑・ よ・入・ま・く・ や・も・ び・ ま・く・り・ 城・上・
・珠・下・山・ 逸・三・郡・ 墓・ち・り・ 現・ そ・ト・ 有・れ・ バ・ そ・み・ み・ハ・
・大・あ・と・穴・磯・ や・ひ・て・ そ・の・う・ら・ や・る・ 大・あ・の・長・岡・ や・シ・
・地・ナ・リ・モ・シ・ト・ び・ 大・ あ・ ち・ 神・ の・ 祭・ 祀・ 有・ア・ そ・の・ 祀・

倭國造アカツキノササシハ名都メシタリモナシム. 三之の長尾布宿ナガオブササシ称スル.
姓氏錄ノミノクアリ. クル宇豆彦ウズヒコの後流ノクニヤクモ. 倭國造ノクニヤク
乃祖ノシロナリ. 長尾市ナガオシ代世ゲノシテハ. いすゞイヌヅ倭アマ國造ノクニヤク
少ツカラ職シテシ. 久又クマニ之ノ姓カバネノモア. 久又クマニ之ノ仁カニニ
傳ツカシ也シテ三ミツ年ニ七ナナ年ニ也シテ久又クマニ之ノ倭アマ國造ノクニヤク
直祖アタシノオヤ也シテ久又クマニ之ノ倭アマ國造ノクニヤク也シテ久又クマニ之ノ倭アマ國造ノクニヤク
倭國造アカツキノササシハ名都メシタリモナシム. 三之の長尾布宿ナガオブササシ称スル.
倭國造アカツキノササシハ名都メシタリモナシム. 三之の長尾布宿ナガオブササシ称スル.

ナリシのうす。その後の御事なまきもと。書記り珍
彦と倭、造やゆくあるハ。子孫の職号と。始祖すも
さすがてかくり傳するを取て記されるもの
ナリ。折神武天皇の傍代アハ道臣命大久保命
あやま。功最大まると。はじめより御。居于筑坂邑
おやみありて。その因造やもくもく。ハ見
ざれば。多く人ぞもと也。但し。の長
尾市宿称も。いや。か。蛇尾や。すと。れば。始祖珍
彦のそなり。かの長岡岬。あり。地と賜ア。知傳

うへやいすらしやもに大和の國内ありて。さへ小倭也
いすらハ、みゆき連郡のやまと也と。後原都のゆづりやまと
冠^{スケフミヒ}ゼツひなれありやいはせむちくも縁あり。都
乃名^{ニヤ}セアリ^{トナリ}。かくアレ郡まども及ばずてつあらす
れ。すより^{トナリ}隣郡の名もと何の由^{ヨシ}リ。は都^{トナリ}りて
冠^{スケフミ}ラセツアリ。カタマリ藤原都^{ミヤコ}あるりまども倭
々の内なりてせぬ。同ド倭^{トナリ}つの内ありてゆふやまと
カタイはむハ、倭^{トナリ}内ありてゆふやまといもも同
事なし。之でそればうれも。うれ候事^{トナリ}例^{トナリ}や同

トウル皆すりて。同ド倭^{トナリ}國の内ありて。殊^{コト}ふ京師^{ミヤコ}の
ゆづり^{トナリ}。倭^{トナリ}いすらなり。香具山^{カグ}ハ、藤原都^{ミヤコ}
の東方小島^{トナリ}びていゆせぬ。吉那^{ヤナ}尔て^{トナリ}夷^{ヤシマ}をすも
はド^{トナリ}。かくれば^{トナリ}万葉考の後ハ、もろくて。冠^{スケフミ}
考^{トナリ}のちき修^{トナリ}の條^{トナリ}。一ふの名を都^{オフ}小負^{トナリ}せき^{トナリ}すも
せいしれむか^{トナリ}宣^{トナリ}。ゆふよふ
夜麻^{ヤマ}登^{トナリ}。あらぬ^{トナリ}考^{トナリ}の一部^{トナリ}の考^{トナリ}。姑^{ヤマ}國
ハ、四方子^{ヤマ}山門^{ヤマ}出^{トナリ}入^{トナリ}。山門^{ヤマ}國^{ヤマ}名^{オフ}を負^{トナリ}る^{トナリ}
すもすも。すもすも。ひ後^{トナリ}宣^{トナリ}

か。彦主又已が考すあり。そはす。舊書紀神武。清多モリ。
天皇の御言尔。此國の事と聞於塩土老翁曰。東有美地。
青山四周。云々。セリ。又大己貴命ハ。玉牆内國也。日をあ
すひ。又古事記倭建命代御。小夜麻登波久能麻本
呂波多。那豆久阿袁加岐夜麻碁母礼流夜麻登志宇
流波斯。やしもみくま。又石比賣命代御可尔。袁陀豆夜
麻夜麻登。ち。やしもみあす。此比賣命代御可ナム。は
ク代倭々をのこす。すれども。袁陀豆夜麻ヤソハ。
一。ふ乃傍アリ。れる。枕羽アリ。て。植立並清々。如く

小山の宍道湖。を訪。こまようなり。あの件。ア古言。ゼモ
みふ。此ふ。山の周廻。キス。山。ある。御。セ。とい。る。る。ハ
夜麻の山。たる。こ。や。ハ。海。ア。ト。登アハ。三。か。の。考。ア。リ。
一。か。ア。ハ。登。は。處。ア。ト。山。處。ア。意。ナ。ラ。ボ。ト。處。と。登。ア。の
みい。それ。ハ。立。處。伏。處。寐。處。竈。處。井。處。拔。處。足。處。ナ。ギ。の。例
の。ご。ア。ト。又。止。字。と。古。く。登。ア。訓。ミ。テ。書。紀。の。私。記。ア。
古。語。謂。居。住。為。止。也。ア。リ。字。書。ミ。シ。居。丸。住。丸。注。ア。說。文
小。处。字。と。止。也。ア。注。ア。王。篇。ア。處。字。と。居。也。ア。注。ア。も
ナ。ギ。ト。モ。ア。ア。ボ。ニ。か。ア。ハ。登。ア。都。富。代。約。ナ。リ。ム。

倭建命の御哥尔・夜麻登波・久尔能麻本呂波云々・阿袁
加岐夜麻・碁母礼流・夜麻登云々・也あ・拂弓と合勢く
見汽・麻本呂波の麻ハ真・呂波ハ助辞アリて・これも久
尔能本ナリ・又書紀アリは此拂弓と・景行天皇歎大法ア
ヤシ・麻本呂波を・摩保邏摩ヤ・アリテ・釋紀・私記曰・師
說謂鳥之和支乃之太乃毛乎・為保羅磨也・摩謂・眞實也・
言鳥腋羽乃古止久掩藏之國也・案奥區也・今俗謂保呂
羽訛也・云々・今案・大和國者・奥區之由褒美也・アリ
これも山の周廻キルサ・アリ・アリ・アリ・アリ・アリ・アリ

ノテ・山都富ナム・ノテ・都ハ例のアリ・通フ・助辞・富ハ
字ハ假字アリ・次第々物アリ・故・それアリ・處を
いす・古云ナリ・されバ・是又・ひのタケ・アリ・アリ・アリ・
負・す・名アリ・そのアリ・と・あ・く・い・は・争・ア・ハ・應神天皇
の・鳥野と・望坐て・よ・ア・セ・あ・キ・ア・レ・大法・可・小・知婆能・加
豆怒袁・美礼婆・毛ニ・知陀流・夜迹波・母美由・久尔能富母
義由・や・阿・ハ・鳥野ア・も・ア・リ・ハ・今・の・平・あ・京・ア・地・ア・レ・
等・山ア・矢・ア・リ・ト・都・ア・ミ・ア・ル・サ・ル・立・テ・山代國の・奥・區
ア・ア・ト・ア・リ・ト・山・富・ア・ル・ア・マ・ア・ル・ア・リ・也・ア・レ・ア・リ・ア・リ

但鳥腋羽乃古止久也。いまとハ、さうもあらず。かの
おに譬えてああすやつたり。わざとれども鳥比
保羅^ホ羽も。翅^{ヒサ}の肉小^ホ却^シまれる。羽^ヒりふ意^ト
て。近^ハ助辭^{ナリ}。まされば。保^ホ也^シ。言^ヒ此^ミハ同^トき
なり。又古云よ。あすそれやくゆ。又あすぞ^シりなす
いすもし。布^フや保^ホ也^シ。通^{コニ}音^ノて。含^クましらる。意^ト
す。懷^{フトモ}も。今何ん人あや^シ。即^ハほや^シろとも^シして。され
も衣^{コロモ}す。却^シられ。後^{カムカシ}をとつ。中^{カムカシ}の云よ山姫
やう。何^ハいすも。人乃懷^{フトモ}よ。うやくあらむにハあ

私記の後と。おおむねは。いすゞ。かくに考てまつる
うれあり。うれある事の奇也。もなまは。みのまくらの
意。もあく。又真秀のさりとけ。あく。國也
いすゞで。麻保良。ホラ。種く。さなま。グ。こく
字。ある。上。代。り。ひ。る。言。意。幾。も
將。り。要。る。あ。る。傳。又。高原の意。を。よ。流。も。の
慈。神天皇。大御。ホ。富。の。み。と。く。考。傳。も。の
變。ほ。傳。か。の。ま。ハ。の。り。と。く。考。傳。も。の
ま。の。經。わ。方。う。お。が。手。さ。さ。わ。ざ。な。と。や。三。部

アハ登は。宇都の字と省き。都と画つ。いすゞにて。山宇
都の國。あ。は。か。く。て。そ。の。宇。都。ハ。宇。都。ナ。無。内。室。な
や。の。宇。都。あ。む。り。や。も。と。す。ぎ。も。な。キ。内。や。つ。ゆ。経。や
を。す。房。し。右。ア。内。を。宇。都。ナ。い。す。り。例。多。ト。亭。サ。ル
万。禁。の。奇。ル。垣。内。や。あ。は。垣。都。ナ。も。書。て。假。字。ヨ。可。伎
都。や。あ。む。や。同。き。れ。バ。然。訓。傳。よ。う。や。も。今。世
か。き。う。ち。や。ト。萬。禁。ハ。と。う。され。ば。これ。内。と。う。都。や
い。ひ。そ。の。字。と。省。き。る。う。や。と。も。萬。禁。の。例。す。り。と。今。世
ア。垣。内。や。書。て。加。伊。登。や。唱。る。地。名。経。か。こ。り

ハルハ加伎都の轉^{ウツ}。字ハトモニに書^キ
シテ居^リのなり。これ又宇都の都^ツを登^ムも^リ。是^ト
例^{アリ}。ナシ宇都^ツを登^ムも^リ。例^{アリ}。都^ツ多^シ中^ス。上^ル
引^ル薦^シ神天皇の大法^{アリ}。薦^シ加豆怒^ス。よ^ミ
あ^シ。和名抄^{ナシ}。和名抄^{ナシ}。加止^{カド}乃^{ナシ}。參河國
の鄉^{タカシマ}名^シの磯泊^{レハブ}を。和名抄^{ナシ}ハ之^{レハド}波止^シ也^ト。高^{タカシマ}
圓^{カク}を高松^{カシマ}也^ト。あ^シ書^シ。後^シ亦^シ近^シ。そ^ニ
青牆山^{アラガキヤ}。青牆山^{アラガキヤ}。あ^シ。玉牆内國^{タガキノウツクニ}を。あ^シ。
昌^{ヤマツクニ}合^セ。山内玉^{タガキ}也^ト。其^ノ清^シ也^ト。其^ノ清^シ也^ト。

玉牆内國^{タガキノウツクニ}。玉牆^{タガキ}を造^リ。事^{タガキ}。あ^シ。如^シ尔[。]

山^{タガキ}の周^{タガキ}。肉^{タガキ}。筋^{タガキ}。骨^{タガキ}。りふ^{タガキ}。すれ^{タガキ}。ば^{タガキ}。あり。上^{タガキ}件^{タガキ}。

仰^{タガキ}山^{タガキ}の況^{タガキ}。己^{タガキ}。三^{タガキ}の考^{タガキ}。すやのうら。と^{タガキ}も人^{タガキ}。

公^{タガキ}のよ^{タガキ}。じ^{タガキ}。を^{タガキ}。よ^{タガキ}。共^{タガキ}の名^{タガキ}。古^{タガキ}。より。宗^{タガキ}。

室^{タガキ}。く^{タガキ}。み^{タガキ}。洗^{タガキ}。ざ^{タガキ}。も^{タガキ}。あれ^{タガキ}。や^{タガキ}。と^{タガキ}。み^{タガキ}。あ^{タガキ}。ま^{タガキ}。

二^{タガキ}部^{タガキ}。海^{タガキ}。書^{タガキ}。紀^{タガキ}。私^{タガキ}。記^{タガキ}。天地剖^{タガキ}判^{タガキ}。泥^{タガキ}濕^{タガキ}未^{タガキ}乾^{タガキ}。是^{タガキ}。

以^{タガキ}栖^{タガキ}山^{タガキ}往^{タガキ}來^{タガキ}。因^{タガキ}多^{タガキ}蹤^{タガキ}跡^{タガキ}。故^{タガキ}曰^{タガキ}山^{タガキ}跡^{タガキ}。山^{タガキ}謂^{タガキ}之^{タガキ}耶^{タガキ}麻^{タガキ}跡^{タガキ}謂^{タガキ}之^{タガキ}止^{タガキ}。

又^{タガキ}古^{タガキ}語^{タガキ}謂^{タガキ}居^{タガキ}住^{タガキ}為^{タガキ}止^{タガキ}。言^{タガキ}止^{タガキ}住^{タガキ}於^{タガキ}山^{タガキ}也^ト。す^{タガキ}い^{タガキ}す^{タガキ}。ハ^{タガキ}り^{タガキ}。

天下^{タガキ}の太^{タガキ}号^{タガキ}也^ト。見^{タガキ}て^{タガキ}い^{タガキ}す^{タガキ}。況^{タガキ}あれ^{タガキ}ハ^{タガキ}誤^{タガキ}。あ^{タガキ}す^{タガキ}。泥^{タガキ}濕^{タガキ}未^{タガキ}。

乾か。ゆひてすみか。ゆくもと山跡也。書あつてす。文字
アレ御見そ。あはうりふ役ある。妄説す。泥濕の
乾ぎ。率も。山々住すも。古書よりくわぬ
御やしわす。書紀神代卷。古國稚地稚。ナリテ
ハあれやも。これハ國も人といす。ゆ事あぬ。ナリテ
あれば。山々住ちやむり。山々町。阿ハセ
御ると。弊冲が。山々と。一山の名を。見て。和則
ウギリ。泥濕のかよう。山々町。阿ハセ
此私に。の後を取ざり。へちる事。す。ある。山跡の

字アトナムガミモく和州ハ四面み多山ナレバ・往來の駅
山ナリ木木か木唐ノヤニヒテ・莫茶木集木カム・山跡也
書るナギモ證ヨリハ・モウ強也ナスリ・山ナリ往來の
跡のカヤクヒツム・木の名ナリ負唐ノモウダニ
ト云・山ナリ住木アキ・寫・村モウタガシキ・木の
既とカタニタム・跡の木ハ・いは里木・ゆば木・方木
字の義アトカツカツ・河の魚木便木・いがれアトナレ
信て書ち例アヤクルカ木・比・名ナスガム・コモレ木借字の
カモガム代・笑冲ち木・代文字アト・ちが木手世間ノ木

第凡てせざる。ぞう。とく。又考の。り。倭々
をあめ。や。せ。れ。る。説よ。大坂門。木門。あざる如
く。上部代。おんぱよ。東。ヒカシ。西。ヤト。
都。ヒ。北。ヒタ。南。ヒタ。門。ヤト。名。おがけ
す。あい。流れ。おろ。ハ。徒。シタガ。ひ。甚。シタガ。ト
了。え。あ。そ。む。了。口。方。ミ。引。山。門。ヤト。甚。か。ハ。大。和。ふ
れ。ぬ。れ。口。乃。所。ア。リ。ハ。然。シ。ト。地。ト。ヨロ
レ。シ。又。さ。れ。方。モ。證。シ。ト。レ。上。部。代。ア
東。宣。ニ。ゆ。ル。山。門。あ。す。そ。あ。が。ま。都。シ。マ。フ。上。ア。リ
あ。れ。バ。ナ。リ。あ。そ。か。シ。け。ド。山。近。キ。地。イ。何。處。ヨ

そも然へける清川のうすい水の名前をもゆる
ひやうだかる神也。上りあくいづらがめくたる。とや。
又或人の说アリ。大和ハ伊豆山乃東南ある國なれば。
山名のきたり。此山乃北れる山を背^{シロ}せり。すと
あらば^{シロ}。せひアリもコトアリ。東南をかせり。彦子
由^{シロ}。山背てある山名も。伊豆山乃北れるよへあらば。
されハ大和を主^{ムネ}。その山乃方の山也。後^{ウタ}ナレ
キナリ。それ皆山背み冠^{ムカ}すと、傍ハ山内也。そ
ひの處をれ外^トぞ。いそぞういは。そのうすい外^トぞい

ひて、^{アラカキタ}此青垣山^{アラカキタ}ごろのやかんやあくゐる方^{アラカキタ}山^{アラカキタ}
ノモトシシヨリ。又傍ハ^{アラカキタ}わなう奈良坂の方^{アラカキタ}み山^{アラカキタ}低
ヒテ開けある所^{アラカキタ}と。山門^{アラカキタ}あやうす。やうすも人行
えり師の考定めく。里方みす山門より出ひ
てそこは名^{アラカキタ}がくほきれ。その中^{アラカキタ}かく山門^{アラカキタ}低^{アラカキタ}す
都^{アラカキタ}を山門^{アラカキタ}いは年^{アラカキタ}の御^{アラカキタ}の事^{アラカキタ}がくつ^{アラカキタ}と
承^{アラカキタ}ゆとや。又或況^{アラカキタ}ア。伊弉諾伊弉冉尊^{イザナギイザナミ}の大八洲^{オホヤシトトヨアキヅシニ}と生
まし呵^{アラカキタ}。始多^{アラカキタ}大日本豐秋津洲^{オホヤシトトヨアキヅシニ}を生むるなり。
やまと^{アラカキタ}ハ八洲本^{ヤシモト}ゆつよきの名^{アラカキタ}すりやつよハ七洲^{ナシモト}を

除^{アラカキタ}きの^{アラカキタ}大号^{オホナ}了^{アラカキタ}都^{アラカキタ}をいすらすれバ。うれひ^{アラカキタ}の
うす八洲^{アラカキタ}と生^{アラカキタ}すを^{アラカキタ}次第^{ツイチ}も。古事記^{アラカキタ}アハ。大倭^{アラカキタ}ハ終^{アラカキタ}止
ナリトセ也。又藝冲^{アラカキタ}が流^{アラカキタ}ア。釋名^{アラカキタ}小山^{アラカキタ}産^{アラカキタ}也。產生萬物^{アラカキタ}也。而
いすら成^{アラカキタ}りて。嘉號^{アラカキタ}なる有^{アラカキタ}ア。下^{アラカキタ}の藝名^{アラカキタ}用^{アラカキタ}ひ
ざ^{アラカキタ}ふ^{アラカキタ}の字^{アラカキタ}ア。諸^{アラカキタ}事^{アラカキタ}や。名^{アラカキタ}や。好^{アラカキタ}字^{アラカキタ}と著
メ嘉名^{アラカキタ}を取^{アラカキタ}む^{アラカキタ}。諸^{アラカキタ}事^{アラカキタ}や。名^{アラカキタ}や。好^{アラカキタ}字^{アラカキタ}と著
天^{アラカキタ}の下^{アラカキタ}は大号^{オホナ}ある^{アラカキタ}。上^{アラカキタ}劫代^{アラカキタ}より^{アラカキタ}はすを^{アラカキタ}すれば。
内^{アラカキタ}も^{アラカキタ}何^{アラカキタ}もあ^{アラカキタ}ぬと^{アラカキタ}也。

あもちゅる御やハ師本嶋也全同ド例あり. 次アリ
くいと合せり. 神武天皇の國
状を席免して. 脣脛の齧呴せらる. 席免すれ
至. 或ハ天の下れ. 或ハ大和一の車也.
ク. 代秋は行ふ名を. 爪に名れや. 也.
而. 國状を. ある. がまく. た. お野ふ人も. ほの
傳きれど. 古ハ後ア. 那. ち. あ. あ. わ. る. わ. ザ. の. 地. を
も. 其國や. い. す. ね. の. こ. や. か. れ. バ. お. お. あ. す. り. わ. も.
ま. ま. 旗畠天皇. 武吉. 行. て. お. 虫. の. 清腕. を. 吹.

秋津嶋ハ古事記よ. 大倭帶日子國押人命坐葛城室之
秋津嶋宮治天下也. 曰りて. 書紀も此拂事小. 二年冬
十月遷都於室地. 是謂秋津嶋宮也. 云々. 云々. 孝安天
皇孔都の地名なり. 云々. 神武天皇乃. 猶如蜻蛉之齧呴
也. 詔ヨリハ. 即此地のうせにて. 云々. 大詔より起坐
云々. 腕上も. 嘘間立も. 室も. 云々. 云々. 云々. 云々.
云々. 大和山葛上郡也. 云々. 孝安天皇の百餘年久しく
數坐ア. 京師の名稱も. 秋津嶋倭也. 郡. 云々.
云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々. 云々.

あつた。蜻蛉アキツをとぎの蛇アムと吹トビキりて叫メレ。大脚アキヅ哥トビキ。
手タマこもタマ可アム。蛇アムうゑアムがき。甚アモヒと。阿岐豆アキツけやとひ。
かよカヨざサわハ。負オハもし。そスソス都ヤシト。傍ヤシトのまと。阿岐
豆アキツ野ノコ。そよソヨせ。あひひ。それより其地ノコを阿岐豆野アキツ野ノコ。
せぬがけセヌガケ事モノ。古アラの紀アラ。日ヒ。此後アフタ前マサニ
のきアフタ。古アラよりは倭國アシカニを秋津アキツ治マサニ。今かく
此アヒめアヒ。もみアヒ。負アキツ。蜻蛉アキツが功サラ。もよアヒてなり。みよ
みちアヒ。ゆくアヒ。あられアヒ。秋津アキツあつアヒ。あが
えアヒ。あくアヒと書アヒ。此脚アヒ可アム。細アヒ。ふゆ也アヒ。たまふ。よひ

タナカ汝うかへ置ひ秋津鳴倭ヤニあり是ハ源まつち
波カタが名アナおづる此秋津鳴倭ヤニ形を波カタアリ
て安地コと晴軒野アキツヌあがまじゆきたは
ばハ。さればハせもよび。此時の晴軒乃功イサラ
よりて國名と秋津修業アキツウエイあがまくわくわが
ゆえ。またれぬばハ。またち。秋津の津ハ。ちよ
記書紀フルキフニ。右書ふゆまこめ。能字アナトは
皆阿岐豆アキヅ。豆をみみ書スムニユ。清音ヨリの能字アナトは
一物スミ。後半ハシメ。清音ヨリ。虫の名も

曰ド。又この嶋と洲シマをも書ふ。トセキ。阿岐豆須
タモツシハ。ヨリヤテキナリ。洲字ハ須ニ用
コハカミのシヤクアリ。也。新津洲アキツシマのシヤクアリ。
物ヤクハ例モヤクアリ。モウナシヌシヤクアリトモ。
シモ又海シマアキミ地トコロ。鳴アキシテアリ。アキヤ、志麻
也ハ。りもセハ必トコロ。シヤクアリ。シヤクアリ。山川ちやふ
まれ。周カギリ。限カギリ。の。ある。地トコロ。トコロ。アキナラニ。始トコロ
い。アキ。如く。アキ。バ。ハ。秋津トナメ。清アキツ。ちや。アキ。モ。ひ。の。先アキ。氣
多アキ。と。ゆえ。アキ。ま。

はも。青山の東ざれる。さあ。ほと。す
そひ。やうと。室。ひ。も。さる。由。そ。も。す
あ。や。あ。も。ひ。れ。他。み。も。例。書。紀。よ。越。國。を。大
八。洲。の。一。か。り。き。よ。て。越。洲。や。い。す。も。海。ハ。隔。く。
れ。が。も。彼。國。ハ。い。か。り。よ。り。も。と。隔。て。別。一。區。あ
ふ。ぐ。め。く。あ。れ。ば。な。ま。ば。く。筑。紫。の。宇。佐。と。宇。佐。嶋。や。あ
る。山。川。あ。ざ。み。の。あ。ざ。り。て。一。區。の。地。ち。り。あ。た。る。
又。應。神。天。皇。代。都。ハ。太。和。も。あ。あ。郡。の。輕。や。う。所。
す。と。輕。嶋。や。い。ひ。欽。明。天。皇。の。都。ハ。師。ホ。モ。つ。所。

あると仰本勝也にすらかすがもなる同ドビ錦子も
海ちまくよろり。某嶋也レ地ありあめくね
ハ安例アレゴ都無かヒムチアホハクホ
いちぢくは限サカヒアキ地モシ。ちふくは
ハ定事テ。ウダレタモスルハガリ。それも
わがくのきハ四ト、事ナリ。

師木嶋ハ右事記よ天國押波流岐廣庭命者坐師木嶋
大官治天下也。舊紀うも比古代の君主。元年秋
七月丙子朔己丑遷都倭國磯城郡磯城嶋仍號爲磯城

レナカナサニミヤト
トヨロノト
鳥金刺宮カナサニミヤト有て、此は鉢明天皇の都乃地名ナリと。
あすまのあざめのう。あま
ミヤコ
アリ。折かく戎ミヤコと申す。まれやまゆもを
いすみ。わせはたま一ふと申してアリハアシ。
ミヤコ
奈所ミヤコと申す。わせはたま一ふと申してアリハアシ。
部ミヤコには年がぬ。かのあまのあす。あまゆよ。ハ
アシアシ。アシアシ。アシアシ。アシアシ。
京師ミヤコと申す。アシアシ。アシアシ。アシアシ。
かくもアシ。アシアシ。アシアシ。アシアシ。
秋津嶋ミヤコ乃京也。

いはむが御ミサマ。それ等の船ボウもあらわす。
恭ミサマかまうをいする所シテ、ふの名すにあらず。
このゆき一ふのあやかミサマ。傳ミサマれ船津鳴ミサマ。倭ミサマ
乃ミサマ。——ゆきいはぐミサマ。——とくのばと。そ
かへつミサマ。——とくのばと。京師ミヤコといつるあれや。
かくがミサマ。——とくのばと。やぐミサマ。——ふの倭ミサマ。——
船津鳴ミサマ。——のあやかミサマ。——とくの倭ミサマ。——
弟ミサマは。花河ミサマ。——のあやかミサマ。——とくの倭ミサマ。——
アモ。——もあ十九ミサマ。——とくの倭ミサマ。——とくの倭ミサマ。

人ミサマれざミサマ。——いはひミサマ。——もミサマ。——ハミサマ。——
やミサマ。——きミサマ。——行ミサマ。——いすらミサマ。——こミサマ。——あ良ミサマ。
羅波ミサマ。——とミサマ。——てミサマ。——のミサマ。——いすらミサマ。——仰ミサマ。——ちくミサマ。
倭ミサマ。——もミサマ。——れミサマ。——てミサマ。——天ミサマ。——のミサマ。——下ミサマ。——れミサマ。——大ミサマ。——号ミサマ。——のミサマ。——ぬミサマ。——
さミサマ。——のミサマ。——もミサマ。——秋津ミサマ。——のミサマ。——はミサマ。——同ミサマ。——ドミサマ。——又ミサマ。——のミサマ。
とミサマ。——ゆミサマ。——のミサマ。——よミサマ。——六ミサマ。——大ミサマ。——号ミサマ。——のミサマ。——又ミサマ。
よりうちミサマ。——そしミサマ。——レミサマ。——キミサマ。——本ミサマ。——てミサマ。——起ミサマ。——アミサマ。——とミサマ。——
崇神天皇ミサマ。——鉢明天皇ミサマ。——ニミサマ。——法代ミサマ。——都ミサマ。——とミサマ。——萬ミサマ。——
ハミサマ。——得ミサマ。——りミサマ。——其ミサマ。——故ミサマ。——古ミサマ。——と考ミサマ。

合せまくらひハ・獨坐り人のうまひをす。云間
のたばくの人ハ・も何をなべ。とて何うる事
より丁度ハリひあるあぢれ方、とゆひくいすのふ
ハアミタ・されバ京ミヤコをもよおせり。とて鉢明天
皇の内町ノトキへひなす。當時の京の名と他京了
うかりて後むね云るが、あがくはしてれ京の稱ナメ
ざせりきるなり。あやまよせり。りわくとも唐タウ
すみが後むね代スルめぐみほろぬ。ましもく
李姓リウヂの京よりしひまくまくふとあれ方、の京也乃
ト。

又ク純伊邪那岐命の詔アリ。稱辭タコトやしものと浦安
國ハ・上々いすゞめ。細戈千足國ハシボコナダルクニや・細戈ハ知チの
枕詞カタワカ。細ハ戈をほえぬ。役すれバ・久波斯ハレを訓
侍スル。知チ却セツぐまハ・玉タマの邊エダりつを同ド。遂も

美ハ御^ミ御^ミ。漆^ツあるもあれば、枕^{カタマリ}はう^{カタマリ}と^ミ知^ミ
實^カ係^カきり。ちるハ古^ヘ戈^{ホコ}の柄^ハ。又^ナ知^ミつふ處^{カタマリ}の^ミ一^ミな
子^チ房^ル。元^ミて手^ミ小^ミ坂^ハて引^ミ舉^{アゲ}。膳^{シヤク}料^リ付^{ツケ}。^ミ也^ト。
知^ミ云^ナ劍^チ多^シ。今^ミも幕^サすが^ナ小^ミ乳^ミ云^ナりの^ミそれ^{アリ}。
されば戈^{ホコ}とも取持^リ。もろき^ミハ知^ミてか^ミのう^ミの^ミす
ま^ミを枕^{カタマリ}が^ミま^ミる^ミハ^ミ知^ミてか^ミのう^ミの^ミす
て。千足^{チダル}の^ミき^ハ別^{コト}ナ^リ。そ^ハ上^ア引^ミ諸^シ神^ミ天^ミ空^ミの
大^モ拂^フ翁^ル。毛^モて知^ミ陀^タ流^ル。夜^ニ近^ハ波^モ母^ミ美^ユ由^ミ。知^ミ陀^タ流^ル
坐^ス入り。は車^ハ古^ミ手^ミ傳^ヒ。妻^ミくら^ミられバ。こ^ミふ^ハは

おき^ミ坂^レ磯輪^{ワボル}上^{ホツ}秀^ミ真^ミ國^ニハ^ミ磯輪^{ワボル}上^ハ。これも枕^{カタマリ}ハ空^ミ
あれどもい^ミく^ミい^ミま^ミふ^ミ。ひや^ミひ得^ゲ。^ミ水^ミ
傍^シく^ミい^ミく^ミ。磯輪^{ワボル}ハ^ミ皺^レ。波^ミ立^テ。古^ミ今^ミ集^マす。
壬^ミ生^ミ忠^ミ峯^ミが^ミも^ミう^ミ。立^ミ治^ミ。浪^ミの^ミ皺^レ。や^ミあ^ミれ^ミ手^ミ
立^ミず^ミも^ミし^ミ。も^ミは^ミよ^ミ。浪^ミと^ミ皺^レも^ミい^ミふ
る^ミれ^ミ。か^ミや^ミゆ^ミ。か^ミゆ^ミ。か^ミゆ^ミ。か^ミゆ^ミ。
上^{ボル}ハ^ミ浪^ミの^ミ立^ミ。お^ミる^ミなり。か^ミく^ミか^ミく^ミ。浪^ミの^ミ立^ミ。
故^ミの^ミ秀^ミや^ミい^ミす^ミ。海^ミや^ミ書^ミ紀^ミ万^ミ葉^ミ。お^ミも^ミ。ふ^ミ見^ミし^ミみ^ミれ^ミ。
波^ミ立^テ。ほ^ミる^ミ秀^ミや^ミい^ミす^ミ。か^ミよ^ミく^ミな^ミう^ミ。

故上ともち爲く能煩流ボルハ訓致シテ。さればこハお
う御みナリ。いすばうりなり。ちゆく考シテ。ち
もこれも。枕酒シラヒより却シテきあるとハ。あのめくす。
ホツニクニ
秀真國ホツニクニの主ハシテ。その秀の主ハ上ナリ。いすり。か
そ此三部ハ。あぐ畿内の大和ホふをほえて。かく乃く西
すら乃みナリ。ゆくカ。名ナハカ。又カ。前書記カ
目メテ。書シテ。そればシテ。すらカ。もの下
の大号オホナ。すらカ。倭カのちカ。すらカ。いそカ。
ノハアゲ。挙シテ。する。すらカ。

倭の字

倭の字ハ。りやまをうこう。純ふすりがきくわうり。そ
の始シテ。見シテ。前漢書。地理志。東夷。天性柔
順。異於三方之外。故孔子悼道不行。設桴於海シテ。欲居九夷。
有㠭也。夫樂浪。海中。有倭人。分爲百餘國。且歲時來獻。見
云。やうのすら是なり。その後乃書シテ。也。もふも。みかく倭
人カ。いわゆる。又は。よまと倭のみもいすり。さて倭カ。ハ
りゆく車カ。ちカ。れカ。も。う純。漢書。東夷天性

りふあハ後漢書云け、多て見てて、倭國之極南界也
也あれバ、宣國の内乃南辺方の一處の名ナリと、唐書云
云ナリ、又海え何やアリて、宣王乃舊の大号アリ、云々
書云々、そのうちみみかげ得りと傳すて、かへりて、も
詰くアリて、あぐニテ、其ノ御みとひ居るハ、云々、
來計、のこぎたり。その事かづれ馭戎慨言小故ゲ
ク行、辨字漏字アリ。それバ、倭奴ハ、りやどり、云々、
す。又我や、りつて、卷すあく、され、宣王の
内乃一處の名ナレバ、これをもて、大号計倭アキト

柔順カキ書出カキて、有倭人カキ称いすとを思カキめ。
班固が意ハ、說文アリ。坊倭字純本義と順貌也と注アリ
也。同じこそ柔順ナリ。倭人カキハ、いづらにね
あうぶやく、吹やかす。それぞそれも字よ却まく
のれ。はうりあ、ばか。あく宣國の舊說小此國
之人昔到彼國。唐人問云、汝國之名稱如何。自指東方答
云、和奴國耶。云々。和奴猶言我也。自其後謂之和奴國也。
釋曰、紀元三集ナガリ。載られあはざるも。
これも信ウタゲ、より況ナリ。そのゆゑハ、よび倭奴國也。

よりていまとなるとあく倭奴ふやりふかの下にまが
れ了御源ハ丈夫鳴やいふとちりそひふ況ハ肆
何々事めり。とは於を袁や音乃異かるとどく
むちみみづり後やをり。

夜麻登やいふと。やごと此倭の字と何とく書。率は。
つけ字とく矣。又書紀り。日本を書いて夜麻登や訓
す。神代考ア。此云耶麻騰。を註あればも。倭の字
を書ふ。アハ。又註もあき。レバ。安ア。あく用

況傳アア。あくと。又或況ア。倭奴ふと。唐玉乃音
ゆていまと。於能許ア。磧馭盧嶋ヤ。レア。すア。すア。
空いすも。もひ後也。ナリ。殷馭盧嶋ハ。大ハ洲ド。粟
先ナハ。前事却れぞ。も。淡路嶋乃カ。セリ。にある一
都の小島の名ア。ア。それ神代より。その下純大
号ナ。小。いす。れ。そ。セ。ニ。イ。ナ。ア。先。生。國。皇。國。人。乃
いげぬ名と。かふの。人ア。多。く。名。が。く。ば。次。由。ア
名。や。ハ。姑。況。ハ。力。也。近。キ。モ。ア。神。造。者。セ。ア。ア。の
ア。バ。か。の。ご。う。時。と。皇。國。の。モ。ト。ナ。号。の。ご。よ。況。ア。セ。ア。る

ひなまくまくらせあれり。次第く文字ハ、あゆ
の名と何もりうるべみのと借用、例されバ。行
きもくぬより名がきて書る字と、そのよしと用
むじ事。さるあはまことあり。又、代此字嘉号小
而シテ、せしひく囁く人あれども、字のとへ、
とある。皇大廟國スマラオホミクニ號ナなりて、
をや、そそげ倭の字。り候スル、より名がけある。大号
のみシテ、畿内ウチツクニアヤマシと、皇國人のいまと圓て
きりやねシテ、後漢書、魏志、あやよ耶馬臺ヤマタ、隋書
オホナ

北史ヤマト、耶摩堆ヤマト、いすり、カヨ、也、皇國ヤマト、
ては、畿内ウチツクニのふも通リて、みを倭の字と見ひり。

和の字

和シテ、は、皇國ヤマト、て、後よ改シテ、れる字なり。ら
亦シテ、異シテ、の書シテ、大号オホナ、此字シテ、書シテ、かシテ、
す。かシテ、それシテ、左シテ、より倭の字シテ、用ヒテ、あらわシテ、
も。かシテ、吳オジヨ、よりがシテ、あらわシテ、美字ヨキモジ、ともあ
えシテ、てぞ。同音シテ、好字シテ、とあシテ、ひく。改シテ、れり
きし。もは左シテ、ゆく。夜麻登ヤマト、つゝ名シテ、とのみし。

やはして文字ハイクナリ假のあちシバドリキヘ
タニシギナリヌビヘアムマク小倭の字と見ひ事
トモヤ後アハ文字好恩ヨキアシトモカバムニ事
小ちシギナリナリきり。さて和の字也。上アリ引
ふ漢書の文。又順貌ル注セラナリ。和順ナシモ却く
ミを含せんナリ。倭字義も走トホ。書記
の繼祚天皇傳オホミコトコトハの詔詞。日本邕ヤニトハラギテ名擅天下トホ
ある邕ハ雖モレ雖モレとして詩の大雅モレ雖モレとトホ詮トホ。
鳳凰鳴之和也。和之至也。聖德太子ノミコト。

憲法ミソリヲ首ハシメ。以和為貴テラス。又之謂ト雍州モロコシ。
ソハヤ王都のふる名ナラニ。宣國モロコシ。も邊
アラユアヒト。ル。此。ふ。雍州モロコシ。字。も
雖モレ通ヒテ。和也。モモ。往トホ。ア。ソ。ナ。由ヨシ。レ。レ。ハ。
いかれトモシ。その義。と取リ。ナ。カ。モ。ウ。ア。レ。レ。ゼ。
ソ。ナ。モ。ウ。由ヨシ。ア。ソ。ナ。カ。モ。ウ。ア。レ。レ。ゼ。
子華子モロコシ。書ハシメ。太和之國モロコシ。有アリ。ゼ。ト。
後ハシメ。ナ。モ。ウ。由ヨシ。

倭と云ひ和の字小改爲れ却是いぢりあり傳代より
考子了^ト・齊部正通の神代^ト口決不^ト天平勝宝改爲^ト
大和也^ト是^ト拾芥抄不^ト天平勝宝年月日改爲^{テス}大和也^ト
何^ト・云々ハ後^ト是^ト乃書あるし^ト・すりや^ト・^ト云々^ト
考^ト・あく方書^ト・^ト考^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト
古事記^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト
は云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト
御^ト見^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト
が^ト妄^{ミダリ}アモ^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト・^ト云々^ト

改名されど。跡やへあらずれど。ちゆゑ多く彼紀
と考ふる。門のあざへ倭の字とのみ書く。
そのあひゞよハ和の字ふ書ひ一都も見づ。元明天
皇の御代。和銅六年五月乃大命オホミコト。畿内七道諸國郡郷
名著好字ヨキモシラ。あれども。これハ改、
改むゆのゆふ倭字なり。そし聖武天皇の御代。天平
九年十二月丙寅。改大倭國ラスホヤクトト。同十九年三月
辛卯。改大養德國ラスホヤクトト。依舊爲大倭國。也あれば。此付もすむ
倭の字ちより。うやもん。其後も孝謙天皇の

天平勝宝四年十一月乙巳日の下トコロ、以從四位上藤原朝臣永手ヲス為大倭守ヤシム。まことに倭字アシム。その後天平寶字二年二月己巳日オホミコトの勅テレ了ハシメて大和國ヤマハラ也。それより後ハシメ又みる和の字とのみかくきたり。あれりしてま新勝宝四年十一月より寶字二年二月までツクニ間クダリ改寫ハシメられり也。かくれども何やく和の字と書かせるべく爲ハシメり矣。養德堂改寫ハシメの例と見ず矣。比和の字も。かならず詔命オホミコトと著せられありきじと紀ヒのす。

ちよゝ漏ヒラされタマるなり。類聚國史ナガシタマ。且シテされば後ハシメ了写ハシメ。腕ハシメ。よハシテド。さて又多集タマシタマを考カタマリある。十八の考タマシタマ。かくも何ハシメり。和の字と書ハシメふはなづハシメて。十九乃タマシタマ。天平勝宝四年十一月二十五日。新嘗會。肆宴。應詔歌六首の中ハシメ。右一首大和國守藤原永手。朝臣也。これ和の字と書ハシメる始ハシメなり。又二十卷ハシメ。先太上天皇詔。陪從王臣ハシメ。曰。夫諸王卿等宣賦。和歌而奏ハシメ。右天平勝宝五年五月タマシタマ。永手。朝ハシメふ。これより始ハシメて和歌ハシメる。そもそも。此永手。朝

臣と大倭守セシマサセシマサハ上より紀の文シテござりく
勝宝四年十一月己巳日シキヒ己巳ハ二日なる尔。子孫
ふれ倭の字をうける也。比万葉ミツイエノ。その四月の二十
五月純率尔。和の字シモトと書ふをり合せスルありす。等。
まことや天平勝宝四年十一月の三日より二十四日ま
ごとあひどり改名シメニされ。ありもと。さて又大
倭宿称セシマサセシマサ姓ナミハナミ養德ヤーデト宿称改名シメニ。附し。之の
字シモトも。既アリて。大養德宿称ヤーデトセシマサ。和の字
よ改まりある。前も。それとも。ちとシモトか。度シモトきよどりか。

宝字元年六月の取シモトも。たゞ倭字とシモトて。同年十
二月の文シテ。始多て大和宿称ヤーデト也。そのころハ既
ナ姓氏の文字シモトも。私シモト公シモトも。あつせんハかげ
必シモトあゆやまより勅シモトす。定シモト事シモト。ある。されば。是名
の和シモト字シモト成シモト。一シモト。比姓の字も。然改シモトじ傳シモト勅
あシモト。清シモト。其後シモト。かづシモト。かづシモト。舊シモト。もシモト。書シモト。ハ
姓の字改年清シモト。勅シモト。宝字元年小至シモトて。考シモト。ちう
清シモト。まこと宝字元年改シモト。比姓と大和宿称ヤーデト也。書シモト
して。ふ名の方シモト。かづシモト。もシモト。書シモト。院シモト。政シモト。即シモト。

後也。いづれももうちぢや。次傳て續紀は、ハバ、多ひ倭の字なるちぢや。みる倭の字とのみ書て。和也書承うやまく。和の字不^ト書。始多く後ハ、又みよ和の字アリ。倭と書雜^{カキミシ}寫するコモハ、なきれ等。改免あり。倭也年月も。おのがつをなぞくアハ考究あり。又書紀、崇神、佛也みも。和也書ふ而一教あり。又續紀八の者アリ。ニ而大和風也く。和琴也もしとかき。又多摩集七の者アリ。も和琴也く。コレハみる

後也。写へ得れるものなり。年の前アリ後ハモリ也。或るやまと也。而も倭の字と詮み書るか。ムツモトシルクヨ一ねニ教和也書。傍見リ由あるもれば可ナリ。後也。アリハ、がふすくせく通ハ。書く在アリ。ムヤクシク。アヤ写へ。ムダスムアタマ。ハジメ。又和銅て。ふ年号もあれども。比和ハ、やまと。の義アリ。ハジメ。また上件續紀より。アリ。は。等畿内。の大和。一ノ字。名の字アリ。天の下。純大号。アリ。やまと。の。ヨウゴトハ。アリ。大号。アリ。書紀。アリ。アリ。ハ日を。モツ。の字と用

ひれりのりへ承よ.そのうどりへ及ばざりへよ.
和の字を改まりて後も畿内乃國名なぬりは.
や.倭の字とも廢りて.汝もはら續紀なまざる.
倭根子天皇スメラミコトなまざくかし.そのが下もれやく見ゆ
里.あとはゆきをも.大号もやハクル一小の名よりたこ
め.その下と改められ却るうす.何事もを
みゆ.和の字と用ひひとや宣ヨロふりすだりむ.

日本ニホム比能母登ヒノモトやすすも附す

日本ニホム比能母登ヒノモトの號の者カケと書る

文字アダシクニはあづ.異國シメ貢示シメもとせり.そせらふ
建タチられくる號あり.公式令詔書式よ.明神御宇大八洲
天皇詔旨ヒル也.とば.義解よ.用於朝廷大事之辭也.也
ひ.明神御宇日本天皇詔旨ヒルあるを.以テ大事宣ヲル
蕃國使之辭也.といす.代りて知シル.さて此號を
建タチられゆ.我がれの帝代ヒタツす.また古事
記エラ此号ヒタツ又書紀皇極天皇の帝号ヒタツよ.夜麻
登タチり.日をやかざるは.後よ此紀と撰エラ
修シル時ヒ改名シルれるゆ.ねうて.そのうみの文字

アヘアズガムを孝德天皇即位大化元年秋七月丁卯朔丙子高麗百濟新羅並遣使進調云々巨勢德大臣詔於高麗使曰明神御宇日本天皇詔旨云々又詔於百濟使曰明神御宇日本天皇詔旨云々也見く。これぞ新日本號と建て示一とす。されば、先ありける。故さにぐる詔のそあやハ異なりすもありき。

アモ同二年二月甲午朔戊申天皇幸宮東門使蘿我右大臣詔曰明神御宇日本倭根子天皇詔於集侍卿等臣連國造伴造及諸百姓云々これハ是る人所示之詔

ハあづれざも此號と建られて始めてる詔なりが
アリ。かく宣て皇朝の人々もとも新號と示
ム。もとより日本倭根子や倭等
キムテ宣トす。やまとやもと同ド詔やあり
ガ。アラカサナムハアズガムや。かくレバこの日本や
リ号ハ孝德天皇の御母大化元年ふはド。爰て建
ム。れどもこちぢり。等をそくに識者。も。
ク文とよく考す。大化元年ふはド。爰て建
ム。れども。えもん。アラカサナム。汝をそくに

ノハ年號なぞも始より。そのかも新ノ定名。それ故
ある。やも多うれど。此号のやも。下。由有て
あ下ゆ。か。そと。それと。どう。新唐書。ぞく。引
合。勢。て。強。ふ。ア。隋の代。ま。ハ。倭。の。み。い。す。と。度
ア。ア。ア。ア。始。先。て。日。を。や。つ。こ。よ。ハ。よ。く。る。新唐
書。小。日本。古。倭。奴。國。也。云々。咸亨元年。遣使。賀。平。高。麗。後
稍。習。夏。音。惡。倭。名。更。號。日本。使者。自言。國。近。日。所。出。以。為
名。或。云。日本。乃。小。國。為。倭。所。并。故。冒。其。號。使者。不。以。情。故。
疑。鳥。や。つ。す。り。舊唐書。ノハ。倭。や。日本。や。別。よ。舉。て。

日本國者倭國之別種也。以其國在日邊故以日本為名。或曰倭國自惡其名不雅改為日本。或曰日本舊小國併倭國之地。或曰日本者。亦謂之日本也。此号の。お。あ。て。い。す。じ。く。か。ざ。も。ほ。く。ご。り。し。て。ろ。な。る。な。ア。彼。國
も。そ。ひ。い。す。じ。く。か。ざ。も。ほ。く。ご。り。し。て。ろ。な。る。な。ア。大。化。元
ハ。孝。太。宗。が。世。貞。觀。十。九。年。ふ。あ。く。れ。る。と。う。れ。咸。亨。元
年。ハ。そ。の。子。高。宗。が。母。ア。天。智。天。皇。の。九。年。に。あ。く。れ
る。サ。五。年。後。ア。ノ。の。間。ふ。も。僅。東。ハ。育。却。れ。や。も。
な。本。ウ。君。ふ。す。ハ。や。や。の。ま。く。ア。シ。諦。言。ハ。通。ハ。う。れ。て。

日本國新號建
ノタラギナ
日を以て新號建
シテハムニ異方の人乃ニ
シテ語るを能む。シテ御書の筆りと
者多し。もと後文武天皇の時代。栗田朝臣真人を
大使使よ御け。ナリ。トモカのふすも正しく
日を以て名づれ。此朝臣かと云ひ。ナリ。著
アリ。ナリ。ばれのふすは。さくられ。日本
の使なり。名づれ。統紀より見。又。純高唐
書。ナリ。さたぐ。従來のあやとバ。みか傳ふせり。
方ナリ。而して。日本云々。ナリ。は。あ人の臣の

ゆきのち。或始多也。ナリ。代時。或曰。是
武后が世なり。友或說。契号。唐武后が時
かの事。ナリ。恐也。従。上。よ。書紀。と。り。て。い。ま。お。う
ら。宣。ナ。セ。あ。ゆ。ひ。二。上。よ。書紀。と。り。て。い。ま。お。う
ぶ。や。く。な。る。ば。その。ふ。ア。東。國。通。鑄。い。つ。書。小。新。羅。の
文。武。王。十。年。の。せ。丁。う。ふ。倭。國。更。號。日本。自。言。近。日。所。出。
以。為。名。や。い。す。は。唐。ア。咸。亨。元。年。か。く。ア。テ。キ。も。文
と。同。ド。き。れ。バ。う。れ。キ。書。と。や。り。て。書。く。ア。リ。テ。第。不

アリニシ。既往て東國通船ハ。かくもゆのうもあらず
事行ふがやあり。

日本也ノも却きてある号のとハ。もとと傳寫ミテラ
アリ。日純大佛神の生レませる傳國也リアリ。
又ハ西蕃諸國より。日の出大佛神の生レませる傳國也リアリ。
故のゆふは。先のハ殊よニヤウハ。ふくすまれば。也。
そのうみナシ。後がまの歴と云フ。不後のことをぞ
名掛け。うふたりきし。推古天皇の御世。日出處。天
子也のまひむかづ。を曰。ドスロボアナリ。

夜麻登ヤマト也。日本也。つゆり。と男ほこせハ。書紀
よりは。まより。そはいも。ご例を。ま車アシ。世
人乃あざ。ふ信まか。下。神代ミタケ。日本也。云。耶
麻。騰。下。皆效。此。や。い。訓注。ある。なり。古事記ハ。文化
の年。より。ける。ふ後。アシ。車。か。れ。也。ある。よ。れて。夜
麻。登。アシ。も。み。み。倭。字。と。の。み。ク。キ。と。日。や。や。か。れ。也
アシ。ハ。ひ。や。も。も。ア。シ。と。書。紀。ハ。漢。文。と。ク。ギ。リ。字。と
アシ。び。じ。か。れ。る。ね。ア。アシ。ハ。小。ヒ。嘉。号。と。ア。シ。

てかれぬるなり。但一畿内の一ふ乃やまやふハ。
かく倭ヤクミ。天の下代大号セトハ日本ヤクミ。
又一云の名アリ。あモヤケリカムドバヨナキ
かきて紀中ナアヨヒ例有リ。人名モヒコロウ等
モリテ。天皇の大御ノヘ日本ナムシム人のノヘは倭
ヤクミ。日本武尊ハ。天皇の大御父ノ坐て。モラガ天
皇モヒヤクミ。日本ヤクミ。日本ナムシルモナリ。
比能母登號ナ号ハ。古の書ナタタケ。日本ヤクミ

は。ニハ多のさあれ。モリシ異國。アタタシヒ。先
リ設。アムマヌシ。ナレバ。モリシ。リヤハ。ナムシ。始先
モリ爾富年。モジゴエ。モジゴエ。日本
之也。アムト。モリシ。モリシ。訓。モリシ。モリシ。後。ノ
モリ五言。小。ナムシ。ヒヤク。ヒヤク。ヒヤク。ヒヤク。四言。小
や。ナムシ。モリシ。モリシ。モリシ。モリシ。不盡。山。の
長。哥。小。日本。之。山。跡。國。乃。ち。ニ。モ。リ。山。續。後。紀。十。九。光。
真。福。寺。の。僧。の。ち。う。よ。日本。乃。野。馬。臺。能。國。遠。云。ニ。モ。リ。
日本。乃。倭。之。國。波。ち。ニ。ナ。ダ。ガ。ク。ア。ム。ニ。モ。リ。ヒ。リ。

ゆきくゆきひて。年号とも然改めよすひ。大まの号とも
も。飛鳥云々やハ切をよみりたり。さればうしハ、
あやの御淨キヨミバテ内カミナリあるや。もじはまやあり。阿波の淨御ふ
せいは羊ヒツジハ。不より地シカク地シカク。あたれバ。こうやくカク。おゆふ
仍名宮曰。云々こすぞいづばまう。あくまう代わるふ
侍シテ。やくぶらや。げゆ虫ムカシいづばまう。その地シカク
のふやあり。こそ大まの号とも然りづ。その地シカク
のふも冠カスガせき。飛鳥の時トブトリ鳥アスカいづまう。そ
かほぐと春日。明日香を飛鳥ハルニのかくふや。じひふ

ゆきうなり。それやこハ國號クニヲナ。よいすうへ。乃ハシ。倭
セイは年枕カスガ。あり。それ下トブトリ。却アシタて。あづれ。いまどき
からー。行ハシ。とさり。ハ。やすやと日本ニホン書シテ。かう。
その字カタカタうちまカタマせる訓ハナシ。と。やうそ枕カスガ。ふきふ
て。春日ハルニの春日。飛鳥アスカの飛鳥ハスカ。なまく。例トクニあり。と。是
マハ。あくびり。す。近春日ハルニのうしがや。まちの日記
のかく。手ハンドいふを。却アシタ。と。飛鳥アスカの。西海シカク。書
紀カニ。天武天皇の十五年。改元曰。朱鳥元年。仍名宮曰。
飛鳥淨御原宮ハラノミヤト。ある。それ朱鳥の祥瑞のゆゑ。却アシタ。

扱つる松祠の字とりて、やうそその地名の字やなを
あめたり。そひみあとすりて、なへくるをばくらふ
松祠と。やうそ奈良羅波の事ありて、いすれぞ。せば
すねゆきり。かれは春日ハルヒトブトリアスカが、鹿島の明日香アスカ
ある。その地名の字はうちまを。訓と松祠了
なせくらへ乃くざれ等。そのゆせれやすやもし。然くは
あくえ。又それハ松祠のひのとてす字とて。國名の
夜麻ヤマ登の字をかして。日をやかくもあくざれば。み
二部の例ともあくべ。と日の下が國カミ倭ヤマト。

とくご者をす。それす。そりて此松祠。り
つゆ古シルくより。神カミ也。す。宗。孝德天皇も。日本
やくふるい。うれとねむりて。や建タチみひも。こ
もやくれ不盡山フジの。お。い。や。も。お。か。く。ぎ。く。れ。よ
この。す。く。り。ハ。見。く。ざ。れ。ば。こ。は。日本。や。り。よ。號。の。こ
ころと。あ。ひ。て。後。ア。し。ひ。を。か。く。り。も。あ。く。も
く。う。の。下。東。ハ。こ。見。ま。す。が。く。か。も。

豊トヨ大オホ稱辭タヘコト。

葦原中國秋津嶋ナガシマ。豊トヨてふ云と冠クサシテ。豐葦原

原中國豊秋津嶋ツシマ也シテ。八嶋倭ハシマタケシマ不ハ大オホてム云
を冠ハシマせス。大八嶋大倭ハシマタケシマタケシマの國号のみ小
もハシマ。又ハシマて豊ハシマも大オホもいマす。例多き。みハシマ上古
代の稱辭タヘコトあり。然ると大日本オホヤマトをハシマりふ大オホハハシマらハシマし
れハシマて。當代の國号コトとハシマるハシマみて。大漢オホカム大唐オホタウ
トヨアシハラ。例のハシマあてのハシマりハシマてハシマたり。りハシマい。そ
みハシマ豊草原ハシマヒラをハシマの豊ハシマ。いハシマいハシマいハシマ。こハシマはハシマよハシマ
うハシマ美称タミナなるハシマとハシマ。又ハシマうハシマとハシマ。王の

母オホキサキを大后オホキサキやハシマりハシマとハシマ。室オホの左オホハハシマ當御オホシヨ代オホシヨの嫡后ミムカヒメ
を大后オホキサキやハシマりハシマせス。これハシマもハシマ大オホやハシマふハシマ。汝オホ乞ハシマ
くハシマふハシマすハシマすハシマれハシマすハシマ。澄ハシマかハシマ。多ハシマと
書紀フルキナハハシマ古ハシマ称ハシマとハシマす。大脚母オホミオヤをハシマも室大后オホ記
されハシマ。これハシマ彼ハシマふハシマ。汝オホ乞ハシマすハシマ。とハシマ有ハシマけ。事ハシマ
れハシマまハシマ。神代ハシマりハシマりハシマ事ハシマとハシマ。これハシマ
仰ハシマとハシマ。皆ハシマすハシマ。或ハシマハハシマ疑ウミカあハシマす。抑ハシマ
大オホ美称タミナハハシマ大臣オホオミオホラシ大連ハシマなハシマりハシマすハシマ。

みかの上代より承てて、大倭オホヤシトをいするも。
古事記の景行天皇御殿ノミタニ、熊曾建クニタケルが祠而ハシメテ、大倭オホヤシト
也見スル。又、懿德天皇孝安天皇孝靈天皇孝元天皇を
之シテ大倭名。又古事記アリは、意富夜麻登玖迹阿礼比
賣命メノミコトや、假字カキナトする御名ミコトナメあるとシテ。

大和カキを書シムは、意富夜麻登オホヤシト也シテ、
なり。和名抄ウチツクニ、畿内ウチツクニの大和も、又その小乃城下郡
ある。大和オホヤシト也シテ、於保夜萬止オホヤシト也シテあるとシテ、
焉コトハ、御カミとシテの傳トドケ、又、夜麻登ヤマト也シテみりふ

かス、大字の添シテするをもシテ、夜麻登ヤマト也シテのみよシテ、
夜麻登ヤマト也シテ、かス、又大字と添シテかスく事モノや
ゆるシテ、みかをシテみシテあり、夜麻登ヤマト也シテ、
ゆシテハ、和字のみシテり。但シテ、諸ヨムの名、又別々の名、
皆必二字シテ書シム、其ノ御定ミサダイされば、畿内ウチツクニの小名、又
その名アリハ、必大字と添シテ意富夜麻登ヤマト也シテ訓ヨム
正ス、かりとシテ。

天明七年丁未秋發行

書林

勢州松坂日野町

柏屋兵助

錢屋利兵衛

本居先生著述書目

字音	かるけうひ	嘆音三行辨 れを所屬辨	全部一冊	板行出来
漢字三音考		(漢吳唐三音 母子字音ヲ參正)	全部一冊	右同
國號考		全部一冊		
真曆考		全部一冊		
駄戎慨言		全部一冊	發行	
菅笠日記	板行出来	王絢百首	全部一冊	
直日靈				
葛花		嘯山三宅先生校正 宇治大納言物語	全部一冊	
玉らき	(玉らきの註解は書あり 相手を一と筆で書いたりする事)	全部三冊 板行出来	全部一冊	板行出来
大祓詞後釋	全部二冊			
	(是ハモリ中臣祓の註解は書あり 寛政八年辰未新刻出來)			
叢行書林				
勢州松坂日野町				
柏屋兵助				
錢屋利兵衛				

叢書林

京階寺西廬先生著

卷之二

白星集

姐

寶祐八年刻本
大藏經外錄 全陪二冊

全陪一冊 錄出

唐詩一冊

全陪三冊 錄出

葛詩一冊

全陪三冊 錄出

直日靈詩一冊

全陪一冊 錄出

首笠日信詩一冊

全陪一冊 錄出

魏夫人詩一冊

全陪一冊 錄出

真晉書一冊

全陪一冊 錄出

園書一冊

全陪一冊 古同

薰字二音書一冊

全陪一冊 古同

字音書一冊

全陪一冊 錄出

本居宣士著述書目

